

私たちがめざすこと

私たちは、

安倍政権のもとでの
9条改憲は許しません。

日本国憲法を守り生かし、
不戦と民主主義の
心豊かな社会をめざします。

二度と戦争の惨禍を
繰り返さないという
誓いを胸に、「戦争法」の
廃止を求めます。

沖縄県民と想いを共にし、
辺野古新基地建設の
撤回を求めます。

被災者の思いに寄り添い、
原発のない社会をめざします。

人間の平等を基本に、
貧困のない社会をめざします。

人間の尊厳をかけた、
差別のない社会をめざします。

思想信条の自由を侵し、
監視社会を強化する
「共謀罪」の廃止を求めます。

これらを実現するために
行動し、安倍政権の暴走に
ストップをかけます。

▲5月3日東京臨海広域防災公園での集会「9条改憲NO!5・3憲法集会2018」意見広告より

○「安倍9条改憲NO!署名」は、全国で1,350万筆超になりました 昨年秋から行われている改憲阻止の署名活動ですが、全国で目標3,000万の約半数を達成しました。また福島県内目標4.8万で94,038筆(約20%、5月10日現在)を集約、「はらまち九条の会」の集約は5月5日現在518筆となりました。まだ継続中ですので、数人分でも本会事務局にお届けください。

○「市民意見広告運動・憲法9条をこわすな」 毎年5月3日の新聞1ページに護憲の賛同者氏名が掲載される運動ですが、今年は毎日・読売・東京・琉球新報・秋田魁新報の各紙朝刊に掲載されました。賛同者は昨年より500件増の11,873件(名)。福島県欄には約100名が載っていて、「はらまち九条の会」15名の会員名が掲載されていました。



「高校生平和大使」今年のノーベル平和賞候補に

1998年のインドとパキスタンの核実験をきっかけに、被爆地の長崎などから核兵器廃絶を訴える署名を毎年夏国連に届けている「高校生平和大使」が、今年のノーベル平和賞の正式候補になりました。署名は1998年から21年間、通算167万7212筆分を提出しています。大国の圧力や、唯一の被爆国なのに日本政府のふがいなさで、国連での演説が中止になりましたが、大人は若者からこそ学ばなければいけないようです。(5月3日各紙より)



子どもや若者が
大人たちの
お手本ですね

会員さんからのお便り 「貴重な戦跡ですが、何かを行うことはできませんか」



「南相馬市原町区大木戸字松島の畑の中に、大きなコンクリートブロックがあります。戦争中の原町飛行場の格納庫跡です。戦争遺跡として大変貴重なものですが、私たち九条の会として、保存のため何か協力できることを考えたいのですが、どうでしょう。」

(本会報のNo.43には原町飛行場での中野目利次さんの戦争体験を掲載、No.84には大槻明生さん撮影の飛行場跡の写真を掲載。ネットで検索してご覧ください。また二上英朗さんの著書『遙かなり雲雀ヶ原』『原町空襲の記録』も貴重な記録です。)